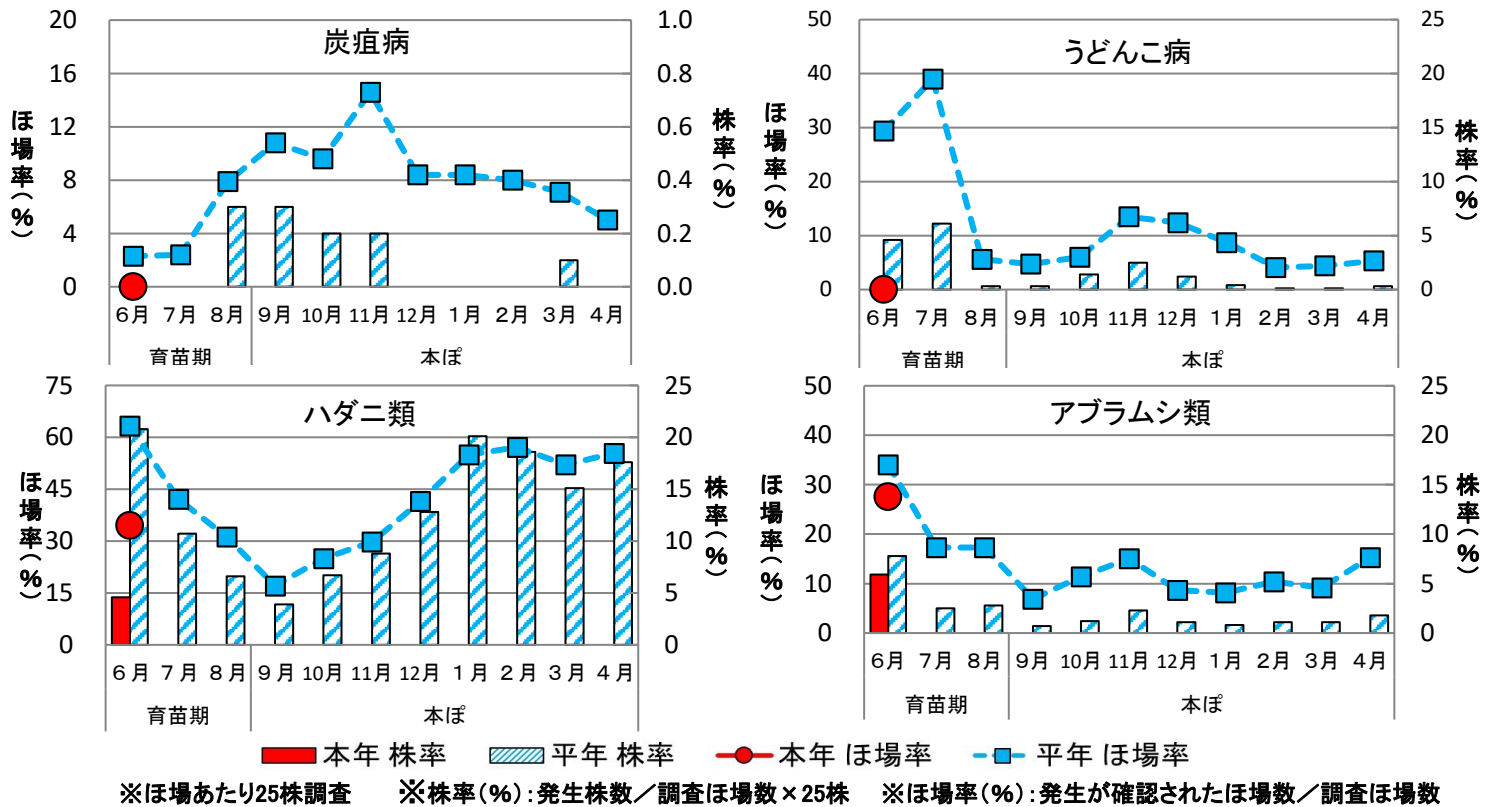


■ 病害虫の発生状況（親株床・育苗）

- ・炭疽病、うどんこ病の発生は少ないです。
- ・ハダニ類はやや少なく、アブラムシは平年並の発生です。



■ 主な病害虫の発生予想と防除対策

- 炭疽病
 - 発生予想
 - 発生量：やや少ない
 - 対策
 - 胞子がかん水のしぶきに混じって飛散、伝染するので、頭上かん水は控え、点滴チューブを用いるなど、できるだけ水の跳ね返りのない方法でかん水を行う。
 - 発病してからの防除は困難なので、予防を主にベルコートフロアブル等を散布する。
- うどんこ病
 - 発生予想
 - 発生量：やや少ない
 - 対策
 - 軟弱徒長すると発生が多くなるので、適正な施肥管理やかん水を行う。
 - 予防を主体にベルコートフロアブル等を散布する。
- ハダニ類
 - 発生予想
 - 発生量：やや少ない
 - 対策
 - ほ場をこまめに観察し、低密度のうちに防除を行う。
 - 葉かき後は薬剤がかかりやすいので、葉かき作業にあわせて薬剤を散布する。
- アブラムシ類
 - 発生予想
 - 発生量：平年並
 - 対策
 - 発生初期から薬剤をローテーション散布する。
 - 雑草はアブラムシ類の増殖源になるので、ほ場内外を除草する。

■ 今月のトピックス うどんこ病について

- ・クモの巣状～粉状白色のカビによる病害で、梅雨時期の7月上旬に最も発生が多くみられます。長雨による過湿で軟弱徒長や過繁茂した株で多く発生しています。
- ・葉かきにより株間の風通しを良くし、かん水に注意し、施設内の換気を行います。薬剤防除は予防剤を主体に葉裏にも良くかかるよう散布し、本ぼに移行しないよう防除を徹底します。



葉表の病徴



葉軸の病徴



果梗の病徴